

昭和62年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)

関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和62年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、昭和63年9月2日、家の光会館において開催した。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験13剤、適用性試験33剤、生育調節剤は、作

用性試験5剤、適用性試験3剤であった。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行なった。

その結果は、次表の通りである。

昭和62年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A 除 草 剤

I 小 麦

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量／a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. AH-601乳 ・未公開…10%								(作A B) 適用性で検討.
2. ANK-553乳 ・ペンディメタリン……30%	「実・継」 〔処理時期の拡大〕	土 壌	播 種 後	30～50 m/	全 土 壌 〔砂土を除く.〕 ~~~~~	全 域 (畑作, 水田裏作) ~~~~~	1) 覆土が著しく浅い場合には薬害が出やすいので注意する.	
		茎 葉	小麦 1 ～ 2 葉期, スズメノテッポウ 1.5 葉期まで.	30～50 m/〔但し, 寒地は30～40m/〕	全 土 壌 〔砂土を除く.〕	寒地(畑作), 温暖地東部(畑作, 水田裏作)	1) スズメノカタビラには効果劣る.	・葉令とイネ科雑草に対する殺草効果について. ・地域拡大.
3. B-3015・P粒 ・ベンチオカーブ……8% ・プロメトリン……0.8%	「実・継」 〔地域拡大〕	土 壌	播 種 後	400～500 g	全 土 壌 〔砂土を除く.〕 ~~~~~	寒地(畑作),	1) 砕土, 整地, 覆土をていねいに行つて均一に散布する.	・薬害の確認.
				500 g		寒冷地北部(畑作)		
				400～600 g	壤土～埴土	温暖地以西(畑作, 水田裏作)		
				300～400 g	砂 壤 土			

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
3. B-3015・P 粒 (つづき)		生育初 期処理	スズメノ テッポウ 1.5葉期 まで。	300～500g 300～400g	壤土～埴土 砂 埴 土	温暖地以西 (畑作, 水田 裏作)		
4. CG-157 水和 ・未公開…1%								(作A B) 作用性で検討。
5. Dowco-433 乳 ・フルロキシピ ル……………30%	「実・継」 〔前年 通り〕	茎 葉	小麦5～ 6葉期	10～15 ml	全 土 壌	寒冷地以西 (畑作, 水田 裏作)	1) 広葉雑草対象。 2) 体系処理: イネ 科雑草に有効な 既登録除草剤と 組合せて使用す る。	・効果の確認 (寒冷地にお いて秋処理に ついての検討) ・地域拡大。
6. DPX-16 ドライフロ アブル ・DPX-16 ……………75%	「継」							・初年目, 薬害 の検討。 ・薬量, 処理時 期の検討。 (作A B) 適用性への移 行不可。(北海 道)。
7. DPX-53 ドライフロ アブル ・DPX-53 ……………75%	「継」							・初年目, 薬害 の検討。 ・薬量, 処理時 期の検討。
8. EL-107 水和 ・イソキサベン ……………50%	「継」							・効果, 薬害の 検討。
9. ELH-200 粒 ・イソキサベン ……………0.4% ・トリフルラリ ン……………2%	「実・継」	土 壌	播 種 後	400～500g	砂壤土～ 埴壤土	温暖地以西 (水田裏作)	1) 砕土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する。 2) 後作物はイネ科 作物に限る。	・効果, 薬害の 確認。 ・他の後作物へ の影響につい て。
10. グリホサート 液 ・グリホサート ……………41%	「実・継」 〔地域 拡大〕	茎 葉	耕起前10 ～15日 耕起前7 ～14日	50 ml/ <水量 10 l/a> 50～100ml/ <水量 10 l/a>	全 土 壌	寒地(畑作) 寒冷地(畑 作, 水田裏 作)	1) シバムギ対象。 1) 一年生雑草対象。 2) 周辺作物への飛 散に注意する。	・地域拡大。 ・低散布水量 <2.5 l/a> について。

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
10. グリホサート 液 (つづき)				25~50 ml <水量 2.5 l/a> 50 ml <水量 10 l/a>		温暖地(畑 作, 水田裏 作)		
11. Hoe-113 ディスポー ジョン ・未公開… ……60 g/l								(作AB) 作用性で検討.
12. Hoe-866 液 ・グルホシネー ト……18.5%	「実・継」	茎 葉	耕起前7 ~14日	30~50 ml	全 土 壌	寒冷地以西 (畑作, 水 田裏作) ~~~~~	1) 一年生雑草対象. 2) 周辺作物への飛 散に注意する.	・効果の再確認.
13. HOK-862 水和 ・DBN…30% ・ニトラリン ……15%	「継」							・効果, 薬害の 再検討.
14. HOK-868 フロアブル ・未公開…20%	「継」							・成分未公開, ・効果, 薬害の 検討. (作AB) 適用性への移 行不可(北海 道).
16. MW-831 水溶 ・ピアラホス ……20%	「実・継」	茎 葉	耕起前7 ~14日	30~50 g	全 土 壌	寒冷地以西 (畑作, 水 田裏作)	1) 一年生雑草対象. 2) 周辺作物への飛 散に注意する.	・効果の確認.
17. NCA-256 水和 ・ピラゾスル フロンエチル ……10%	「継」							・初年目, 有望 (広葉雑草対 象). ・効果, 薬害の 検討. ・混剤化の検討. (作AB) 適用性へ移行 可.(北海道).
18. NY-712 水和 ・ピリデート ……40%	「実・継」 「前年」 「通り」	茎 葉	ムギ生育 期(2~3 月)	25~35 g	埴壌土~ 埴土	暖地(水田 裏作)	1) 広葉雑草対象(ミ チヤナギを除く). 2) 体系処理: イネ 科雑草に有効な	・効果, 薬害の 検討. ・処理時期の検 討.

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
18. NY-712 水和 (つづき)							既登録除草剤と 組合せて使用する。	・地域拡大。 (作A B) 適用性へ移行 不可(北海道)。
19. PL-10 乳 ・既知化合物A ………15% ・既知化合物B ………10%								(作A B) 適用性で検討。
20. PL-15 乳 ・既知化合物A ………15% ・既知化合物B ………15%								(作A B) 適用性で検討。
21. プロジアミン フロアブル ・プロジアミン ………41%								(作A B) 適用性へ移行 可(北海道)。
22. RNC-61 水和 ・ジフルフェニ カン……10% ・CAT……20%	「実・継」	土 壌	播 種 後	7.5～10 g	全 土 壌 〔砂土を除く。〕	寒冷地, 温 暖地(畑作, 水田裏作)		・効果の確認。 ・地域拡大。
		茎 葉	麦2～4 葉期, 雑 草2葉期 まで。	5～7.5 g		寒冷地, 温 暖地東部 (畑作, 水 田裏作)	1) 展着剤を使用す る。 2) 一年生広葉雑草 対象。	
23. RSH-44乳 ・ジフルフェニ カン……40 g/l ・トリフルラリ ン……400 g/l	「継」							・初年目, 有望。 ・効果, 薬害の 検討。 (作A B) 適用性へ移行 可。
24. RSH-45乳 ・ジフルフェニ カン……2% ・アイオキシニ ル……8%	「継」							・効果, 薬害に ついて再検討。 (作A B) 適用性へ移行 不可(北海道)。
25. SSH-55乳 ・トリフルラリ ン………14% ・プロメトリン ………6%	「実・継」 【前年 通り】	土 壌	播 種 後	70～90 ml	壤土～埴土	寒冷地(畑 作)	1) 砕土, 整地, 覆 土をていねい に行って均一に散 布する。	・地域拡大。
					全 土 壌 〔砂土を除く。〕	温暖地以西 (畑作, 水 田裏作)		

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
26. TM-871 水和 ・未公開…80%								(作A B) 適用性へ移行可.
27. BAS-3510 (Na) 液 ・ペンタゾン (Na)…40%	「実」	茎 葉	幼穂形成期	10～15m/l	全 土 壌	寒地(畑作)	1) 一年生広葉雑草対象.	
			麦生育期 雑草発生 揃期	10～20 m/l		寒冷地以西 (畑作, 水 田裏作) ~~~~~	2) 体系処理: イネ 科雑草に有効な 既登録除草剤と 組合せて使用す る.	

II 大 麦 類

1. Dowco-433 乳 ・フルロキシピ ル……………30%	「実・継」	茎 葉	大麦5～ 6葉期	10～15m/l	全 土 壌	温暖地以西 (畑作, 水 田裏作)	1) 対象: 二条大麦, 六条大麦. 2) 一年生広葉雑草 対象. 3) 体系処理: イネ 科雑草に有効な 既登録除草剤と 組合せて使用す る.	・効果, 薬害の 確認.
2. DPX-16 ドライフロ アブル ・DPX-16 ……………75%	「継」							・初年目, 処理 時期, 処理量 の検討.
3. DPX-53 ドライフロ アブル ・DPX-53 ……………75%	「継」							・初年目, 処理 時期, 処理量 の検討.
4. ELH-200 粒 ・イソキサベン ……………0.4 % ・トリフルラリ ン……………2 %	「継」							・初年目, 有望, 効果, 薬害の 検討.
5. グリホサート 液 ・グリホサート ……………41%	「実・継」	茎 葉	耕起前7 ～14日	25～50 m/ <水量 2.5 l/a> 50 m/ <水量 10 l/a>	全 土 壌	温暖地西部 (水田裏作)	1) 対象: 二条大麦. 2) 一年生雑草対象. 3) 周辺作物への飛 散に注意する.	・効果の確認. ・地域拡大. ・低散布水量 <2.5 l/a> について.

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
6. KUH-813 細粒 ・オルソペンカ ーブ……8% ・リニュロン ……1.2%	「実・継」 〔前年 通り〕	土 壌	播 種 後	400～500 g	全 土 壌 〔砂土を除 く。〕 ~~~~~	寒冷地、温 暖地（畑作、 水田裏作） ~~~~~	1) 対象：二条大麦、 六条大麦。 2) 碎土、整地、覆 土をていねい に行って均一に散 布する。	・効果、薬害の 検討。 ・地域拡大。
7. MB-206粒 ・リニュロン ……1.5%	「継」							・効果、薬害の 検討。
8. YF-65①液 ・ジクワットジ プロミド ……7% ・パラコートジ クロリド ……5%	「実・継」 〔地域 拡大〕	茎 葉	耕 起 前	60～100 ml	全 土 壌	寒冷地、温 暖地（畑作、 水田裏作）	1) 対象：二条大麦、 六条大麦。 2) 一年生雑草対象。 3) 周辺作物への飛 散に注意する。	・効果の確認。
9. MW-831 水溶 ・ピアラホス ……20%	「継」							・初年目、効果、 薬害の検討。

Ⅲ い ぐ さ

1. Hoe-171① 乳 ・フェノキサブ ロップエチル ……90 g/l	「実・継」	茎 葉 （落水）	イグサ先 刈後～ノ ビエ5葉 まで。	10～15 ml	全 土 壌	温暖地西部 以西	1) 冬雑草を有効除 草剤で防除した あとに使用する。 2) イネ科一年生雑 草対象。	・効果の確認。
2. MY-93E粒 ・ジメピペレー ト……7% ・ペンゾフェナ ップ……6%	「実・継」 〔前年 通り〕	土 壌 （湛水）	一年生夏 雑草発生 始期（3 ～4月）	400～500 g	壤土～埴土	温暖地西部 以西	1) 冬雑草対象除草 剤との組合せで 使用する。	・効果の年次変 動。 ・処理時期の検 討。
3. NC-302① フロアブル ・キザロホップ エチル……10%	「実・継」 〔地域 拡大〕	茎 葉 （落水）	イグサ先 刈後～ノ ビエ5葉 まで	10～15 ml	全 土 壌	温暖地西部 以西	1) 冬雑草を有効除 草剤で防除した あとに使用する。 2) イネ科一年生雑 草対象。	・効果の確認。
4. MC-79 粒 ・ピフェノック ス……7%	「実・継」 〔処理 時期 の拡 大〕	土 壌 （湛水）	一年生夏 雑草発生 始期（3 ～4月） ~~~~~	300～500 g 〔但し、温 暖地西部 は400～ 500 g。〕	壤土～埴土	温暖地西部 以西	1) 冬雑草対象除草 剤との組合せで 使用する。	・処理時期（2 月処理）の検 討。

Ⅳ 水 稲 刈 跡

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. グリホサート 水溶 ・グリホサート ………20%	「実・継」	茎 葉	稲刈取後 (ミズガ ヤツリ再 生後)～ 塊茎形成 始期(9 月下旬) まで。	75～100 g	壤 土	温暖地東部	ミズガヤツリ対象	・効果の確認。 ・地域拡大。
2. MW-831 水溶 ・ピアラホス ………20%	「実・継」	茎 葉	稲刈取後 (ミズガ ヤツリ再 生後)～ 塊茎形成 始期(9 月下旬) まで。	75～100 g	壤土～埴埴 土	温暖地東部	ミズガヤツリ対象	・効果の確認。 ・地域拡大。
			稲刈取後 10日			温暖地西部 (四国)	セリ対象	

B 生 育 調 節 剤

I 小 麦

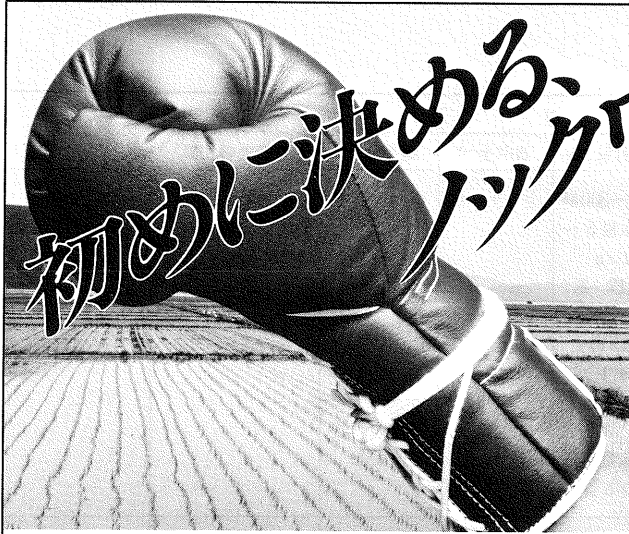
薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. エテホン液 ・エテホン ………10%	「実・継」 〔処理 時期の 拡大〕	茎 葉	出穂始期	200～300 μ <水量5～ 10 l/a 〔但し、寒 地、寒冷 地は10 l /a〕>	全 土 壌	全 域	小麦対象。 倒伏軽減効果。	・効果の確認 (散布方法等 について)。
			穂ばらみ 期～出穂 始期	200 μ <水量10 l /a>		寒冷地、温 暖地東部		
2. GRH-624 水溶 ・未公開								(作用性)
3. KUH-833 F $\oplus$ フロアブル ・未公開…25%								(作用性)

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
4. BR-10 液 ・ブラシノライ ド……………10 ^{ppm}								(作用性)
5. JRDC-694 液 ・エピブラシノ ライド ……………0.01%	「継」							・処理時期, 処 理量の検討.

Ⅱ 大 麦 類

1. エテホン液 ・エテホン ……………10%	「実・継」 〔地域〕 〔拡大〕	茎 葉	出穂始期	200~300 ^{ppm} <水量 5 ~ 10 l/a >	全 土 壌	温暖地以西	二条大麦対象. 倒伏軽減効果.	・効果の確認 (処理時期, 散布方法等につ いて).
-------------------------------	-----------------------	-----	------	---	-------	-------	--------------------	-------------------------------------

注) _____ は拡大, - - - - - は一部拡大, ~~~~~ は記載の変更を表す.



ノックワン粒剤の特長

1. 広範囲の雑草に有効
ノビエ、コナギなどの一年生雑草はもとより、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリなどの多年生雑草まで、広範囲の雑草に極めて高い効果を発揮します。
2. ホタルイに安定した除草効果
広範囲の雑草に安定した効果を示しますが、特にホタルイに対しては種々の条件においても確実な効果を発揮します。
3. 水稻に対して安全
温度条件や土壌条件によって影響されることがほとんどなく、薬害の発生することが極めて少ない除草剤です。
4. 人畜・魚介類に安全
人畜毒性が低く、魚介類に対しても安全性の高い除草剤です。



水田初期除草剤

ノックワン[®]粒剤

ノックワン協議会

全国農業協同組合連合会 石原産業株式会社 住友化学工業株式会社 日本農薬株式会社

事務局：石原産業株式会社 〒102 東京都千代田区富士見2-10-30